

国立がん研究センター

東 病 院

大腸がん検診を 受けていますか？

－ 症状がない今こそ、
検診のタイミングです！ －

消化管内視鏡科

新村 健介 医長

しんむら けんすけ

2008年昭和大学医学部卒業、2014年同大
大学院医学研究科 内科系消化器内科修了。

2014年より国立がん研究センター東病院 消
化管内視鏡科任意研修医を経て、2015年4月
より昭和大学消化器内科 助教に就任。

2023年10月より現職。

？ がん検診は、毎年一定の期間に各自治体で実施されていることをご存知ですか？
胃がん、肺がん、乳がん、子宮頸がん、そして今回ご紹介する「大腸がん検診」。
どれも、早期発見・早期治療につながる重要な検査です。

大腸がん検診の方法

現在、国が推奨している大腸がん検診は、「便潜血検査」。2日分の便を採取して提出するだけの簡単な検査です。もし1日でも陽性の結果が出た場合は、必ず精密検査（大腸内視鏡検査）を受けましょう。再度便潜血検査を受けても、精密検査の代わりにはなりません。

大腸内視鏡検査について

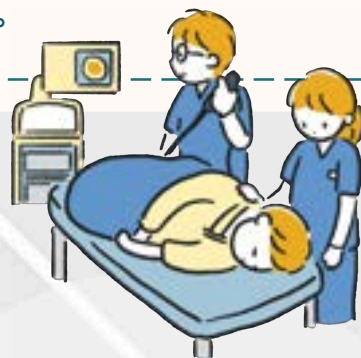
大腸内視鏡検査には前日からの準備が必要です。当院では、腸内をきれいにするために検査食を朝・昼・夕と3食召し上がっていただき、夜寝る前に腸を動かすお薬を服用していただきます。検査当日は朝から下剤を飲んでいただきますが、服用をサポートするアプリもご用意しています。当科と株式会社 Jmees が開発しましたのでぜひご活用ください。>> **SCAN ME!**

検査では肛門から内視鏡を挿入し、大腸の粘膜を直接観察していきます。必要に応じてポリープの切除や組織検査も行います。

大腸がん検診の現状と当科の取り組み

最新の国民生活基礎調査（令和4年度）によると、全国の大腸がん検診受診率は約50%に達しています。一方で柏市健康増進計画の報告書によると、令和4年度の大腸がん検診受診率は14.6%と、全国平均と比べて大きく下回っています。ただし、この数字の差にはカラクリがあります。国民生活基礎調査では、住民検診に加えて職域検診や人間ドックなども含めた受診率が反映されています。一方、柏市の報告書は住民検診のみで、職場の検診や人間ドックは含まれていません。私たちはこの実態をより正確に把握するため、当院がある柏の葉地域において、UDCKタウンマネジメントの協力のもと「スマートライフパス」というポータルサイトを通じてアンケート調査を実施しています。

この取り組みでは、大腸がん検診を受けていない方の生活背景や、受診しない理由を明らかにすることを目的としています。そうした声をもとに、誰もが検診を受けやすい環境づくりにつなげていきたいと考えています。



大腸がん検診を受けるメリット

大腸がんやポリープを早期に発見できれば、内視鏡による低侵襲な治療（内視鏡的粘膜切除術など）で完治を目指すことができます。大腸の機能が大きく損なわれないので身体への負担も少ないうえ、入院期間も短く社会復帰も早いという利点があります。早期の大腸がんは5年生存率が90%以上と非常に高いことも報告されています。

当院の役割

当院では、検診で異常が見つかった方に対し、近隣医療機関からの紹介を受けて内視鏡治療を積極的に行っています。

医師・看護師・消化器内視鏡技師・臨床工学技士・薬剤師・栄養士など、多職種が連携し、チーム一丸となって患者さんをしっかりサポートしています。

- 最後に -

大腸がん検診を定期的に受けることはがんの早期発見・早期治療につなげられる大切な機会です。「何も異常がなかった」という結果も、大きな安心につながります。自分のために、大切な人のために、ぜひ定期的に検診を受けましょう。